

清流ニュース

発行所
八王子市安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 総 祈 願
佛立開導日扇聖人誕生二百年慶讃
佛立開導花運動第二年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成之御願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成、法灯相續促進

七月の御総請日

| | | |
|-----|-----|--------------------|
| 一日 | 十時 | 御修行日 |
| 七日 | 十時 | バスデー総請 日序上人報恩祈念 |
| 十三日 | 九時半 | 高祖御命日 |
| 廿五日 | 九時半 | 門祖御命日 |
| 十二日 | 十時 | 高祖御速夜 |
| 廿四日 | 十時 | 門祖御速夜 |
| 三十日 | 十時 | 欲尊御命日 |

於 羽 村 別 院

特別行事

廿七日 佛立開導日扇聖人
御正当会式

晴天祈願
十三日、廿六日(夏期参詣に併修)
第一座 六時、八時
第二座 九時半、十時半

會議
一日 御総請後 役中會議
日 日 参事會
廿五日 御総請後 教区長會議

7月27日(日)
10時 30分

佛立開導日扇聖人御正当会式 第五宗務支庁長 葛飾・信立寺 御高職 川手日成上人ご唱導

来る廿七日(日)午前十時三十分より、日扇聖人の御正当会式(開導会)が奉修されます。この度の御正当会式は、葛飾・柴又・信立寺御高職である川手日成上人を奉修導師にお迎えいたします。

川手御導師は、現在、第五宗務支庁長として、東京都、千葉県、茨城県の二都二県に亘り、三十数ヶ寺を統率され、また、東日本大震災復興本部長としても活躍中です。

さて、佛立開導日扇聖人、略して開導聖人・大導師・また

日扇聖人も申します。開導聖人は、私達がいつも親しくお唱えさせていただいているお経本(妙講一座)に「蓮隆兩祖の流れをくみ」と教えられていますように、お祖師様日蓮聖人、門祖日隆聖人の教えを正しく承け継がれて、久遠本仏から脈々と流れている、「法華経本門八品所顯上行所伝本因下種之御題目」をお示し下されました。

夏の御会式(開導会)は、この開導聖人への大恩報謝の誠を表す法要であります。

当日は、信立寺、常住寺からの団参をいただくことになつておりますから、当山の各教区各部ともシツカリ将引ご奉公に気張りましょう。

(注・二面に各教区参詣目標数を掲載してありますから参考にして下さい)

夏期参詣

七月十三日(日)〜廿七日(日)
布教区交流参詣は
練馬区・本信寺さん
八王子・経王寺さんと

本年度の夏期参詣は、来る七月十三日(日)より御会式当日の廿七日迄、十五日間実施されます。この期間中に御正当会当日晴天、無事奉修ご奉公成就の晴天祈願も言上され

日頃は、なかなかお寺参詣がままならない方も夏期参詣を節目に精進させて頂きましょう。なお東京中央布教区として恒例になりました、交流参詣があります。当山へは、七月二十二日に八王子・経王寺、二十六日には練馬区・本信寺の二ヶ寺からそれぞれ来寺されます。詳細につきましては期間中の参詣部で披露から報告させて頂きます。次に当山から両寺院へお参詣させて頂く日程が本信寺へ七月六日(日)、経王寺へ七月十三日(日)にお参詣させて頂きます。詳細問い合わせは弘通部へお願いします。

の会員として毎月一口(三百円)以上の御有志を納められていた方々のご回向です。

朝参詣強調週間
第二連合担当
七月二日〜六日

七月の朝参詣強調週間は、二日より六日まで実施。

七月二日(水) 日野教区
三日(木) 立川教区
四日(金) 大和教区
五日(土) 国立教区
六日(日) 京王教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公御有志奉納者氏名(その五十七)
(教区順。敬称略。順不同)
二十六年六月十九日現在
合計七七〇名、一、五二七口

七月十三日
干蘭盆回向
功德会物故会員回向も

十三日から十六日迄、干蘭盆の期間です。

当山は、毎年このお盆の時期に、「功德会会員先亡物故者」のご回向を営んでおります。この法要は、生前、功德会

二には 頼むということ。
われらはこの貴い教えに頼って、言行一切を正しくするようにつとめる。

三には 信ずるということ。
我等はこの貴い教えを信奉して正しい行いにつとめれば必ず此の世界が変じて浄土となる事を信ずるのです。これを妙〇経の五字に冠せしめて、朝夕南無〇経と唱えるのであります。

ただ口先だけでなく心を打込んで唱え、他への思いやりが大切であります。



本月の御妙判

朝夕勤行の意味

― わするなよ あしたゆうべのおかんぎを
ひとの爲にもおのがためにも ―

さればわが身の体性を妙〇経とは申しける事なれば、経の名にてはあらずして、はや我身の体にてありけると知ぬれば、我が身頓て法華経にて、法華経は我が身の体をよび顯はし給ひける仏の御言にてこそありけれ。(十如是事204)

日蓮聖人の教えを頂いて御信心するものは朝夕「南〇経」と唱ふるというのが日々の根本行ですが、これは決して法華経という経典を拜むのではありません。

一切衆生悉有仏性
とありますから、先ず吾等

には仏と成るべき貴い本性即ち仏性というものが具つてい

る事を教え、更にこの仏性を養い育て、行くべき道を教えられるに絶対の帰依する事によつてあらわすのであります。

「法」とは「実在するもの」という意味であり、この天地間に実在するものはすべて「法」であります。われわれの心には仏になるべき貴い本性が具わっているのです、これを妙といわざるを得ません。すべてがこの心から生ま

れてくるので「妙」であるというのであります。故に妙法とは我等の心の本性を指すわけであり、この妙法を蓮華に譬えるのには二つの意味があります。蓮というの花が咲くと共に実が出来るので、心にある事は必ず言語動作にあらわれるというタトエ。第二には蓮華というものは一切の物の中で最も美しいという意味をあらわすのであります。経とは紐の事で、古代印度では美しい花を集めて結んで紐として婦人の髪飾りとしたの

ですが、仏は我等の心の本性を充分に發揮すべき道を教えられた所をとりままとめて後世に伝えるのを名づけて「経」と称し、世を導き人を救うべき道をわれらにしめされたものであります。

此の妙〇経の五字に「南無」の二字を冠して唱えるのです。が、南無と訳して「帰命」と云い、これには三つの意義が含まれてあります。

一は 敬うということ。
このような貴い教えを与えられた仏を絶対に敬うのであります。